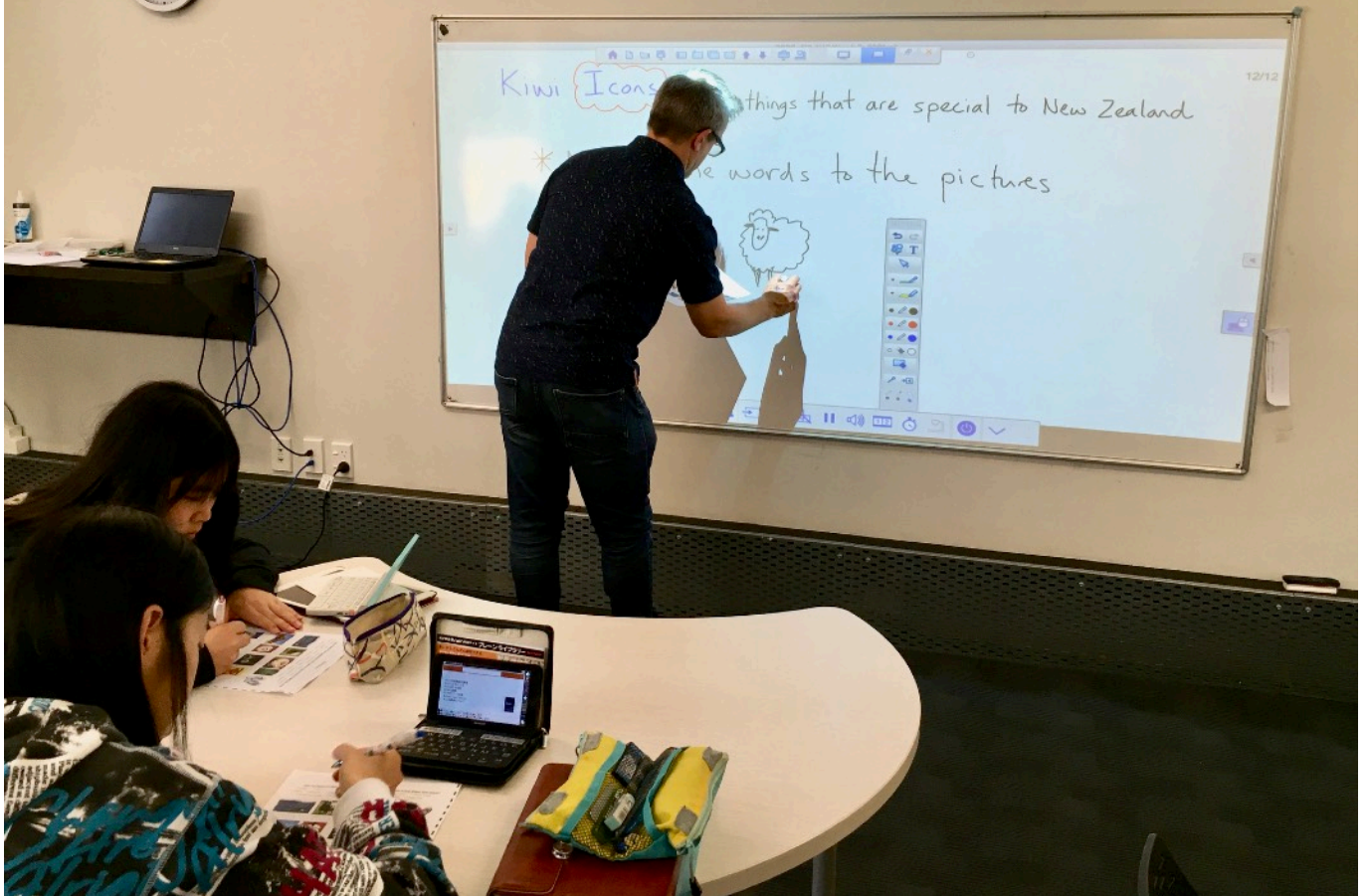


24/01/2020 Fri

語学学校Campbellでの授業も本日が最終日となりました。Campbellでは毎週金曜日に、その週で修了を迎える学生のセレモニーがおこなわれます。本校の生徒たちは、単独で午後におこなうのですが、午前中の一般の学生のセレモニーにも参加させてもらいました。そのクラスの学生だけでなく、その時に通っている全学生と、直接授業で関わっていなくてもその学校の全スタッフが出席してセレモニーをおこなうのが一般的なスタイルです。1～2週間の短期研修から6ヶ月まで様々なスタイルで学んできている人たちが、修了証を受け取り、必ずスピーチをします。しっかり原稿を作ってきている人もいますし、あふれる思いを止められずに、いつまでも語り続ける人もいます。目の前にいる人が知っている人であろうとなかろうと、場を与えられたら、そこで自分の思いを十分に語る、そんなこと当たり前だよと言わんばかりの雰囲気、本校の生徒たちが、こういう姿勢に共感してくれるといいなと願いながら見学させてもらいました。

Ceampbellでの最後の授業です





午後は終了セレモニーです。セレモニーといっても、儀式っぽくはありません。一人一人に名前を呼ばれ、握手をして笑顔で修了証を受け取ります。



生徒たちからは、これまでの授業の感謝の意味を込めて12月の合唱祭で歌った課題曲を披露しました。練習は昼休みにたったの1回だけというぶっつけ本番でしたが、私の期待をはるかに上回る出来の良さで、女子のハーモニーの綺麗さと、男子の迫力ある声に私も感動しました。

日本の学校では、合唱祭というのはどこの学校でもやっていることなので、それほどのこととは思わないのですが、こちらの人にしてみれば、ちょっとお調子者の男の子まで含めて当たり前のように混声でハーモニーを作るって、どんな専門教育を受けている集団なんだって思うようです。

歌い始めるまでは、先生たちも半ば余興を楽しんであげようぐらいのつもりでニコニコしているのですが、今年もやはり、歌い始めた途端に笑顔が消えましたね。なんだこのクオリティの高さは、と驚いて真剣に聞き入ってくれていました。



全員で合唱



歌声が始まると、先生たちが一瞬凍りつきます。





拍手喝采、本当に力一杯拍手していただきました。



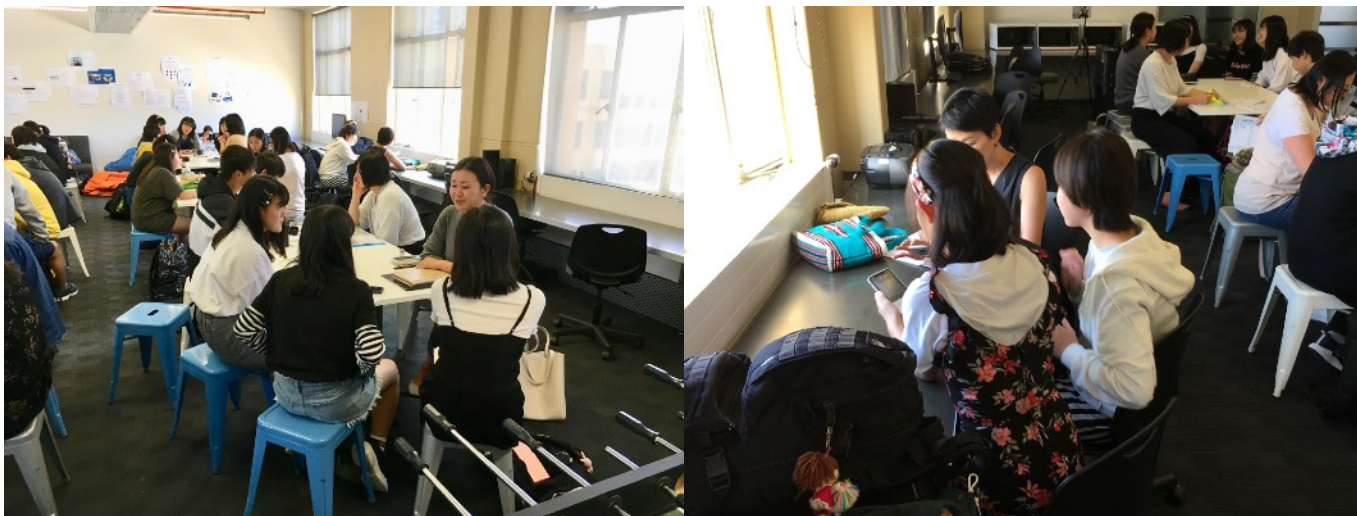
こうやって人前で披露する姿勢そのものが高く評価される文化ですから、未熟だからとかうまくできないからと謙遜せずに、まずは人前に立つことです。「何もしない」と、「挑戦して失敗する」のでは、後者の方が評価は上ですよ。

修了証を手に、全員で記念撮影です。





生徒たちにとっては、ここからが本番です。このあとはよいよ始まる現地校生活について、各アドバイザーさんたちからガイダンスがあります。まずはOKCのMasaeさんから、全体に連絡事項が伝えられ、そのあとはアドバイザーさんごとに担当生徒を集めてのオリエンテーションとしました。



アドバイザーさんごとに、現地校生活やホームステイ生活での留意事項など、細かく丁寧に説明してくださいました。当初は30分程度で終わるかなと思っておりましたが、生徒たちの質問が止まりません。ここまでは、ホームステイ先にも友達がいますし、語学学校も成徳生だけの授業ですから、いよいよ一人での生活が始まると思えば、不安や心配はきりがないのでしょね。さあ、入学からいろんなスタートをしてきましたが、明日は本当に学期留学最後のスタートです。